

別記様式第1号（第4条関係）

木津川市教育振興基本計画策定委員会 開催結果の要旨

会議名	第1回 木津川市教育振興基本計画策定委員会		
日時	令和4年11月10日（木） 午後2時～4時	場所	木津川市役所5階 「全員協議会室」
出席者	委員	■浅野 良一 ■黒上 晴夫 ■川崎 由記子 ■遠藤 順子 ■太田 智之 □上島 由 ■吉崎 由紀子 ■千田 裕美 ■高原 和子 ■藤原 文野 ※□：欠席者	
	その他出席者		
	事務局	竹本部長、大村理事、吉村理事、平井課長、小川主幹兼総括指導主事、齋藤担当係長	
議題	1. 開会 2. 教育長挨拶 3. 委員紹介 4. 委員長及び副委員長の選出 5. 委員長挨拶 6. 諮問（資料5） 7. 議事 (1) 報告事項 ① 委員会について（資料1） ② 木津川市教育振興基本計画策定のスケジュール（別紙） ③ 現行の木津川市教育振興基本計画について（参考資料） ④ 小・中学校をめぐる状況について（資料3） ⑤ 国の流れと第2期京都府教育振興プランについて（参考資料） (2) 協議事項 8. その他 9. 閉会		
審議結果要旨	1. 開会 事務局より、開会を宣言した。 2. 教育長挨拶 森永教育長より、開会にあたり挨拶があった。 3. 委員紹介 委嘱状を交付し委員名簿により委員紹介を行った。		

	<p>4. 委員長及び副委員長の選出 委員長として浅野委員を、副委員長として黒上委員を選出した。</p> <p>5. 委員長挨拶 浅野委員長より、選出にあたり挨拶があった。</p> <p>6. 諮問（資料5） 森永教育長より、木津川市教育振興基本計画策定委員会に対し諮問があった。</p> <p>7. 議事 （1）報告事項 ① 委員会について（資料1） 資料1を用いて説明し、今後10年間の木津川市の教育の基本施策について審議することを確認した。 ② 木津川市教育振興基本計画策定のスケジュール（資料6） 合計6回の策定委員会において審議し、令和6年2月に答申することを確認した。 ③ 現行の木津川市教育振興基本計画について（参考資料） 「木津川市教育振興基本計画 後期 概要版」を用いて、これからの変化の激しい時代を、子どもがそれぞれの夢の実現に向かって生き抜くためには、「質の高い学力」「豊かな心」「健やかな体」の知・徳・体を基盤とした「生きる力」を身に付けることが最も重要なことと位置づけ、「生きる力をはぐくみ 新しい時代を拓く “きづがわっ子” を目指して」を基本理念として掲げていることを説明した。また、基本理念を達成するための3つの目指すべき教育の姿や8つの重点目標について説明した。 ④ 小・中学校をめぐる状況について（資料3） 資料3を用いて、城山台地区で当面の増加傾向があるものの、市内全体の傾向としては減少が見込まれ、2027年度には7,030人程度になると予想されていること、更に中長期的な推計をした場合、現在規模が大きい学校の地域においても、今後、著しい減少傾向が見込まれ、2040年には児童生徒数が約5300人程度になると見込まれることを説明した。国語・算数・数学の学習の状況について、2018年度及び2022年度の小学6年生、中学3年生対象に行った全国学力・学習状況調査の結果を比較すると、国語、算数・数学のすべての問題において、全国の平均正答率を上回っており、この5年間の取組によって、学校間の格差も広がることなく、基礎的・基本的な知識・技能を習得し、思考力・判断力・表現力を身につけることで、学力の維持につながっていることを説明した。学習に対する関心・理解については、5年前と比較して国語に対する関心は、小学校でやや低く、中学校ではあまり変化がない</p>
--	--

	<p>状況であること。算数・数学では、小中学校ともに向上し、特に中学校においては10%を超え高まっていること。理解については、小学校で国語・算数ともにやや低く、中学校ではともに向上し、全国と比較しても高い状況にあることを説明した。特に、小学校の国語に対する関心・理解が、全国と比較しても下降していることから、今後も主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善に一層取り組んで行く必要があることを説明した。次に生活面については、「学校に行くことについて」は「楽しい」と感じている児童生徒が、5年前は全国平均に比べ高い割合を示していたが、楽しくないと答えている生徒が増えてきていること。規範意識については、学校のきまりについて「守っている」と感じている児童生徒が、全国平均に比べ高い割合を示していることを説明した。また、SNS についての質問では、携帯電話・スマートフォン・コンピュータの使い方について約束を守っている児童生徒が全国平均に比べ低い割合を示していることを説明した。</p> <p>いじめについては、「いじめは、どんな理由があってもいけないことである」と感じている児童生徒の割合が高い。しかし、令和4年の全国、平成30年木津川市の状況と比べて、意識がやや減少していることが気になる点であると説明した。</p> <p>⑤ 国の流れと第2期京都府教育振興プランについて（参考資料）</p> <p>国の第3期教育振興基本計画において、「教育を通じて生涯にわたる一人一人の「可能性」と「チャンス」を最大化する」を基本方針としていること。また現在、第4期に向けた諮問を行っていることを説明した。</p> <p>京都府の第2期教育振興プランについては、「目指す人間像」を「目まぐるしく変化していく社会において、変化を前向きにとらえて主体的に行動し、よりよい社会と幸福な人生を創り出せる人」と定めており、そのために育みたい力として「主体的に学び考える力」「多様な人とつながる力」「新たな価値を生み出す力」を掲げていることを説明した。</p> <p>(2) 協議事項</p> <p>今後の協議に向け、木津川市の教育全般について意見交換を行った。</p> <p>8. その他</p> <p>次回の委員会は、令和5年2月14日に開催することとし、事務局より後日、通知することとした。</p> <p>9. 閉会</p>
<p>会議経過要旨</p>	
<p>1. 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本日の会議は公開とし、会議録作成のため録音することの了承を得た。 ・ 委嘱書は、委員机上配付をもって交付とした。 	

2. 教育長挨拶

未だ、新型コロナウイルス感染症の収束の兆しが見えないところであるが、本日の会議は、感染防止対策に万全を期して運営していくので、よろしくお願ひしたい。

「木津川市教育振興基本計画策定委員会」を設置した目的は、後程の諮問文にあるように、本市では、平成26年3月「木津川市教育振興基本計画」を策定し、平成26年度から令和5年度までの10年間の目指すべき教育の在り方を示し、教育の振興に努めている。この計画の策定後、令和2年には、新型コロナウイルス感染症パンデミックが発生し、学校現場では感染症対策を講じながら学習機会の保障や心のケアなどに努めているところである。また一方、情報化の急激な進展に伴い、GIGAスクール構想に基づき一人一台の端末器や通信ネットワーク環境が整備され、学習方法が大きく変容していくという教育環境の大きな2つの変化があった。このように、現在の子どもたちを待ち受ける世界は、大規模な自然災害や世界規模での感染症など先行きの不透明な側面と人工知能（AI）や高度デジタルの適正活用により、豊かで幸福な生活が期待できる側面を併せ持っている。

また、子どもたちの世界では、いじめ、不登校、ゲーム依存、コミュニケーション不足の問題など、人と人との相互理解や協働の精神の希薄化が危惧されている。

令和3年の中央教育審議会 答申「令和の日本型教育」には、“誰一人取り残さない”ことを大きな理念として、“個別最適な学び”“協働的な学び”の実現を掲げている。

本市の教育を推進するにあたっては、この趣旨を十分踏まえ、本市の子どもたちが大きく変化する社会に適切に対応し、多様な人たちと共に幸せに生きていく力を培うことが大切であると考えている。

そのため、今後の10年間を見据え、安全・安心な教育環境の下、学校・園が保護者や地域社会の人たちと協働しながら、本市のすべての子どもたちが学びの主体者として、一人ひとりの能力・個性・適性を十分に発揮し、共に学び・喜び・成長していける教育の振興策について諮問するものである。

委員の皆様方には、本市のすべての子どもたちの「生きる力をはぐくみ、新しい時代を拓く“きづがわっ子”」を目指した第2次木津川市教育振興基本計画の策定について、活発にご議論いただき、さまざまな視点からのご提言をいただきますようお願い申し上げます。

3. 委員紹介

審議結果要旨と同じ

4. 委員長及び副委員長の選出

委員長には、長きにわたり学校経営や学校運営について研究している実績を評価する委員からの推薦により、浅野委員を選出した。

副委員長には、今後ますます情報化教育が推進されていることを踏まえ、情報教育が専門である黒上委員を推薦する意見があり、黒上委員を選出した。

5. 委員長挨拶

木津川市の今後10年の教育の基本計画を策定する委員長になり光栄である。よりよい教育振

興基本計画になるよう、委員には十分な議論をお願いしたい。

6. 諮問（資料5）

審議結果要旨と同じ。

7. 議事

主な意見・質疑等は次のとおり。

会議録署名委員について、名簿順により川崎委員を指名した。

（1）報告事項

① 委員会について（資料1）

審議結果要旨と同じ。

② 木津川市教育振興基本計画策定のスケジュール（別紙）

審議結果要旨と同じ。

③ 現行の木津川市教育振興基本計画について（参考資料）

審議結果要旨と同じ。

④ 小・中学校をめぐる状況について（資料3）

審議結果要旨と同じ。

⑤ 国の流れと第2期京都府教育振興プランについて（参考資料）

審議結果要旨と同じ。

委員長：他市町の教育振興基本計画の策定状況や特徴などを把握していたら教えてほしい。

事務局：京都府第2期教育振興プランを受け、すでに第2次教育振興基本計画の策定をしている市町村もある。他市町村の第2次教育振興基本計画では、SDGs についてや ICT 利活用についての視点を取り入れているところが多い。

（2）協議事項

委員長：1回目の委員会になるので、木津川市の教育について委員の皆様から自由な意見をお願いしたい。2つのグループに分かれ、4つのテーマについてブレインストーミングを行い、その後全体で交流を図りたい。Aグループの進行は浅野委員長、Bグループの進行は黒上副委員長が務める。テーマは、①「木津川市の教育の強み（良さ）」、②「木津川市の教育の改善点」、③「目指すべき10年後の子どもの姿」、④「そのために自分ができること」である。

Aグループ：

①自然が豊かであること。文化財が豊富であること等、教育環境面での意見があった。また、さまざまな職業の方がお住まいであることも強み。ICT教育も進んでいるといった意見があった。

②地域による学校規模の差があること。資源の活用が十分になされていないのではないか。校区が広く、安全面での配慮が必要である。貧困家庭へ十分な支援をどのように行っていくか。

③優しさや思いやりのある子に育ててほしい。ふるさとである木津川市に愛着を持ち、木津川市を発展させていくような人材になってほしい。世界の人々とつながりを持ち、世界で活躍するような子になってほしい。

④不登校など様々な問題を抱えている子がいるが、そんな子どもたちの居場所づくりをしていきたい。そのためには、地域との連携が必要である。学校では、体験を重視し、自分でチャレンジできる仕組み作りが大切である。

B グループ：

③困難な場面に対応できる力、自己実現できる力、グローバル化に対応する力を持った子どもなどの様々な意見があった。木津川市のことが大好きであり、グローバル化が進んでも木津川市に戻ってくるような子どもに育ててほしい。また、木津川市のことを誇りに思い、木津川市の魅力を発信できるような子になってほしい。

①自然が豊かであり、教育資源も豊富であり、体験学習を充実させることができる。教職員が熱心であり ICT を活用した授業も進んできた。

②ICT を活用できる教師とそうでない教師との差が大きく、支援員によるサポートを充実させることが必要である。教師の多忙化、特に保護者対応に時間をとられ、授業準備や子どもへの対応等に十分な時間が取れない状況が見られ、教員をサポートする体制を充実させる必要がある。小中一貫した教育を実現していく。学力をどうとらえるのかという具体的なイメージを共有する必要がある。

④保護者の立場から、地域全体での見守り。学校現場としては地域の連携の強化。アフターコロナを見据えて、学校と地域との連携をどのように進めていくかが課題である。

その他の意見として、管理職ではなく担任の先生の意見を聞きたいというものがあった。これについては、コロナ禍で難しい面もあるが学級懇談会等で意見交流することが大切であると考えられる。学校事務の軽減のために ICT 化を進めることも重要だという意見もあった。また、木津川市としての教育の特色を打ち出していけばよいのではないかという意見もあった。

委員長：両グループに共通する点が3つある。1点目は、都市部と自然豊かな地域の両方があり、いろいろな特色を持った学校や人々が住んでいるという、多様性である。2点目は、開放性である。開放的な雰囲気があり、学校の統廃合や限界集落等の懸念が少なく、今後の10年に希望的な意見が多かったこと。3点目として公平性に焦点があたっていることである。特別な配慮の必要な児童生徒や不登校等、さまざまな子どもたちに対して“誰一人取り残さない”ための教育について追求する意見が多かったように思う。

副委員長：子どもたちに地域の誇りを持たせるためには、市としての教育の重点を明確にした教育活動を展開していけばよいのではないか。

8. その他

(1) 次回の進め方・日程について

今回は、木津川市の教育をめぐる状況について事務局より説明し、基本計画の骨子について協議していただきたいと提案した。

日程は令和5年2月14日火曜日の開催とする。

9. 閉会

その他特記事項	傍聴者2人、報道関係者0人
---------	---------------